

沖縄在住者の「働く」に関する調査

沖縄県内企業の採用実態調査

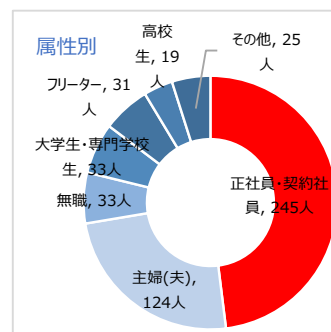
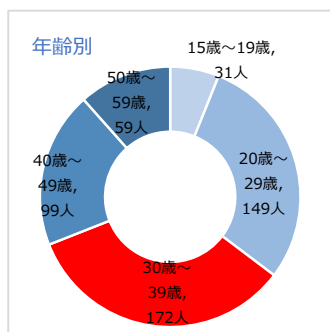
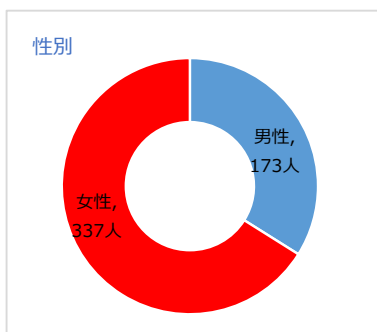
■ 今回の調査のポイント

- ・沖縄在住者を対象に「働くに関する調査」を実施 ……1P～7P
- ・沖縄に所在する企業を対象に「採用実態調査」を実施 ……8P～11P

■ 「沖縄在住者の働くに関する調査」結果の概要

【調査概要】

- 調査期間：2018年11月1日～2018年11月8日
- 調査方法：インターネット調査。
※設問ごとに有効回答のみで集計
※構成比は小数点以下を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100とはなりません。
- 調査対象：高校生から60歳未満の沖縄在住者で、働いた経験(アルバイト含む)がある、または今後働く意向(アルバイト含む)がある方
- 有効回答数：510人
- 回答者内訳



～応募をする際59%が複数に応募、企業からの連絡が遅かった場合「他の求人に応募する」が最多～

○応募をする際、同時にいくつの企業・店舗に応募するか尋ねると、1位が「1件」、2位が「2～3件」、3位が「複数応募の為応募数は把握していない」となりました。また「2件以上」の複数応募が全体の59%を占めており、仕事を探す時には2人に1人が複数同時に応募することが分かります。

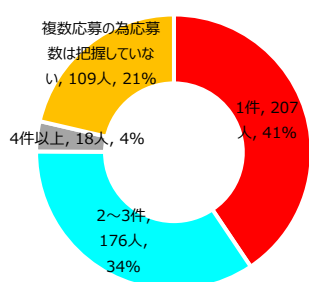
○属性別で比較すると、複数に応募する傾向が強いのは「無職」で複数応募割合が72%を占め、さらに複数応募と回答した内訳でも「複数応募の為応募数は把握していない」が最多で48%でした。早めに仕事に就くために複数へ次々と応募する切迫感がうかがえます。

○求人サイトなどでWEB応募した際、企業から最初の折り返し連絡がくるタイミングで妥当なのは、1位が「翌日中」、2位が「2日以内」、3位が「当日中」となりました。求職者の立場から、最初の折り返しの連絡は当日から2日以内が妥当だと思われます。

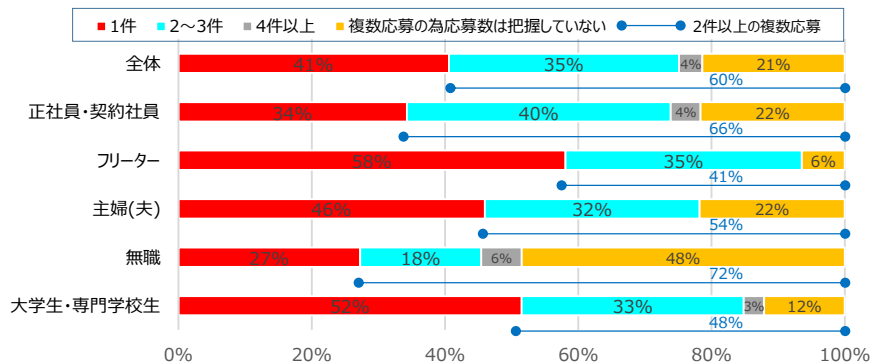
○「企業から最初の折り返し連絡が遅かった」場合に行う行動では、1位が「他の求人に応募する」、2位が「確認の連絡を入れる」、3位が「引き続き連絡を待つ」でした。

○属性別で比較すると、最初の折り返しの連絡が遅かった場合「他の求人に応募する」傾向が強いのは、「主婦(夫)」51%、「フリーター」42%、「正社員・契約社員」37%、「無職」36%でした。全体でも39%が「他の求人に応募する」となっているので、企業は応募があった際に早めの対応が求められていることが分かります。

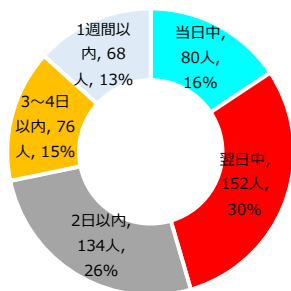
■ 応募をする際、同時にいくつの企業・店舗に応募しますか？



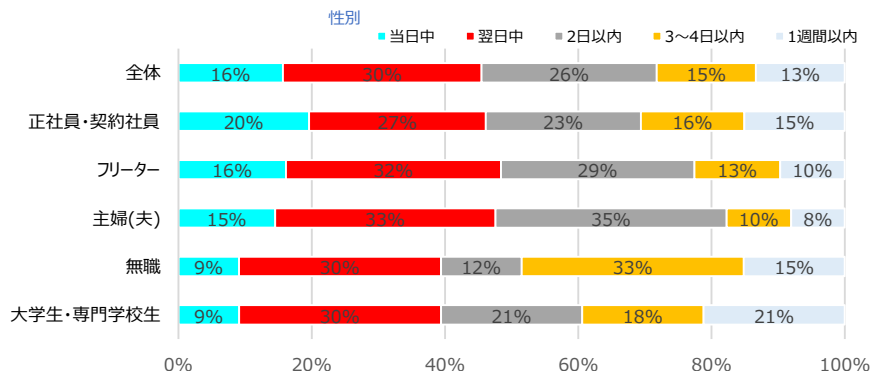
■ 応募をする際、同時にいくつの企業・店舗に応募しますか？／属性別



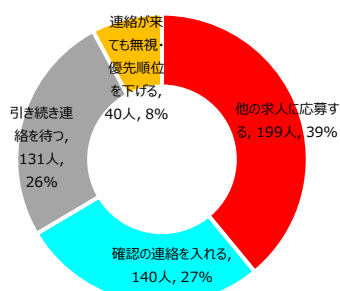
■ 求人サイトなどで「WEB応募」をした際、企業から最初の折り返し連絡がくるタイミングで妥当なのは？



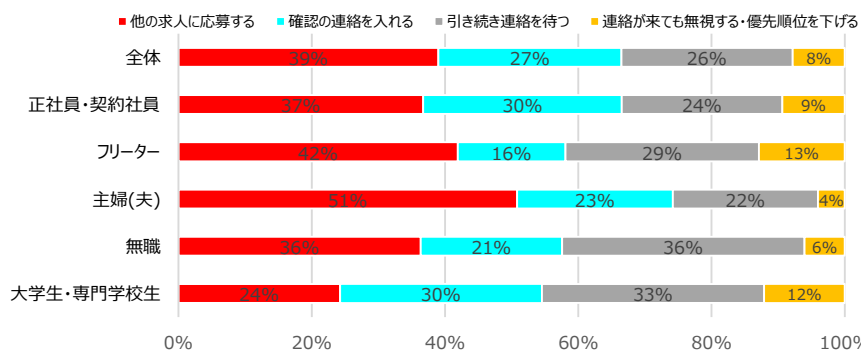
■ 求人サイトなどで「WEB応募」をした際、企業から最初の折り返し連絡がくるタイミングで妥当なのは？／属性別



■ 「企業から最初の折り返し連絡が遅かった」場合に行う行動は？



■ 「企業から最初の折り返し連絡が遅かった」場合に行う行動は？／属性別

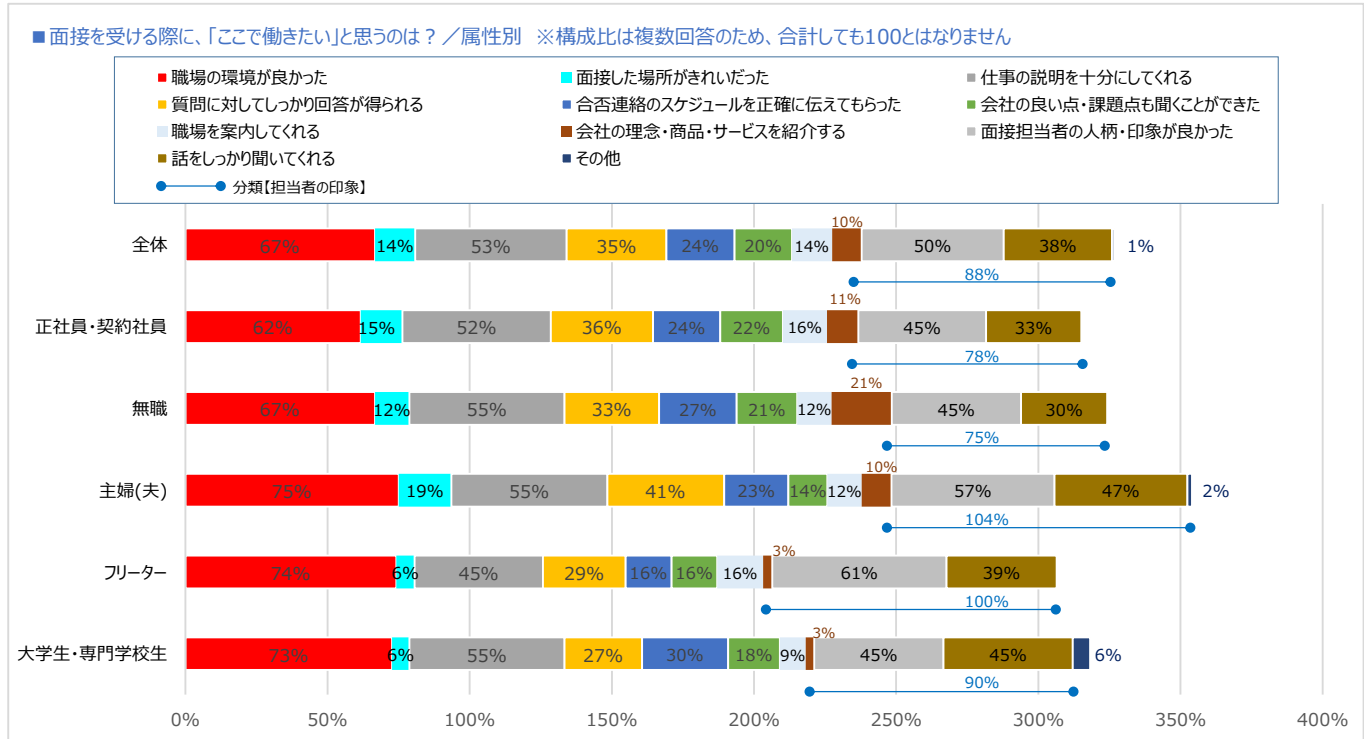
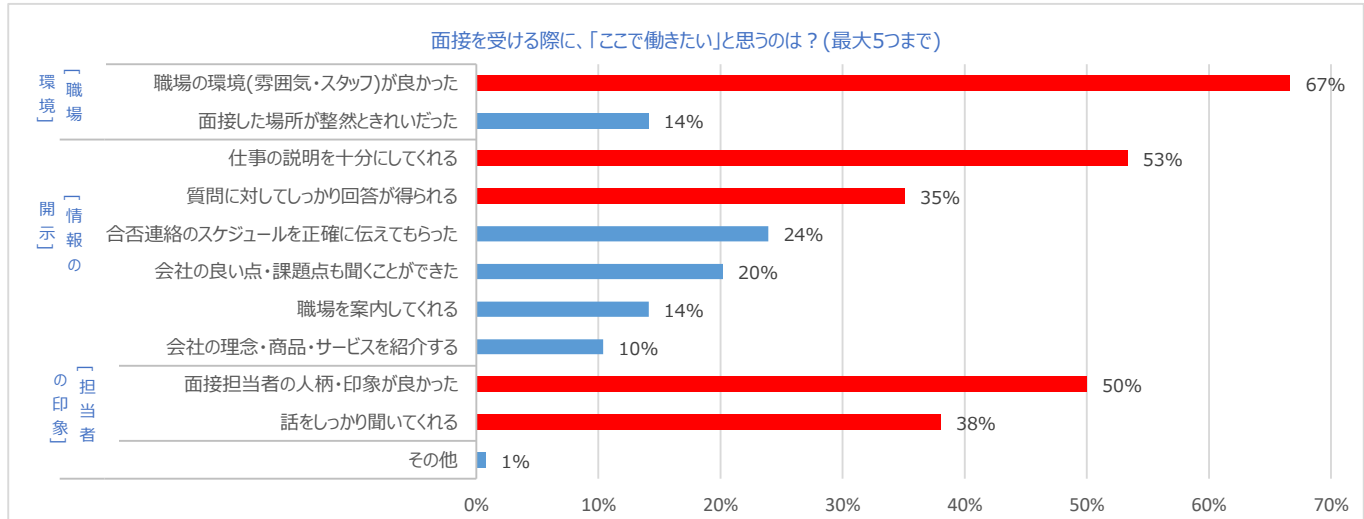


～面接時にここで働きたいと思うポイント1位は、「職場の環境(雰囲気・スタッフ)が良かった」～

○面接を受ける際に「ここで働きたい」と思うポイントを挙げてもらうと、1位「職場の環境(雰囲気・スタッフ)が良かった」、2位「仕事に関する説明を十分にしてくれる」、3位「面接担当者の人柄・印象が良かった」となりました。

○属性別で比較すると、「職場の環境(雰囲気・スタッフ)が良かった」はどの属性でも上位を占めました。また「主婦(夫)」、「フリーター」では、「面接担当者の人柄・印象が良かった」「話をしっかり聞いてくれる」を合わせた「担当者の印象」割合が他属性より高く、面接担当者を重視する傾向が強いことが分かります。

応募者は、面接の時点で雰囲気やスタッフなど職場を確認しており、業務や仕事内容をきちんと説明、質問への回答がなされているか、また担当者が誠意を持って対応しているかなど、企業が面接で応募者を判断していると同時に応募者が働きたい企業かどうかを判断していることが窺えます。

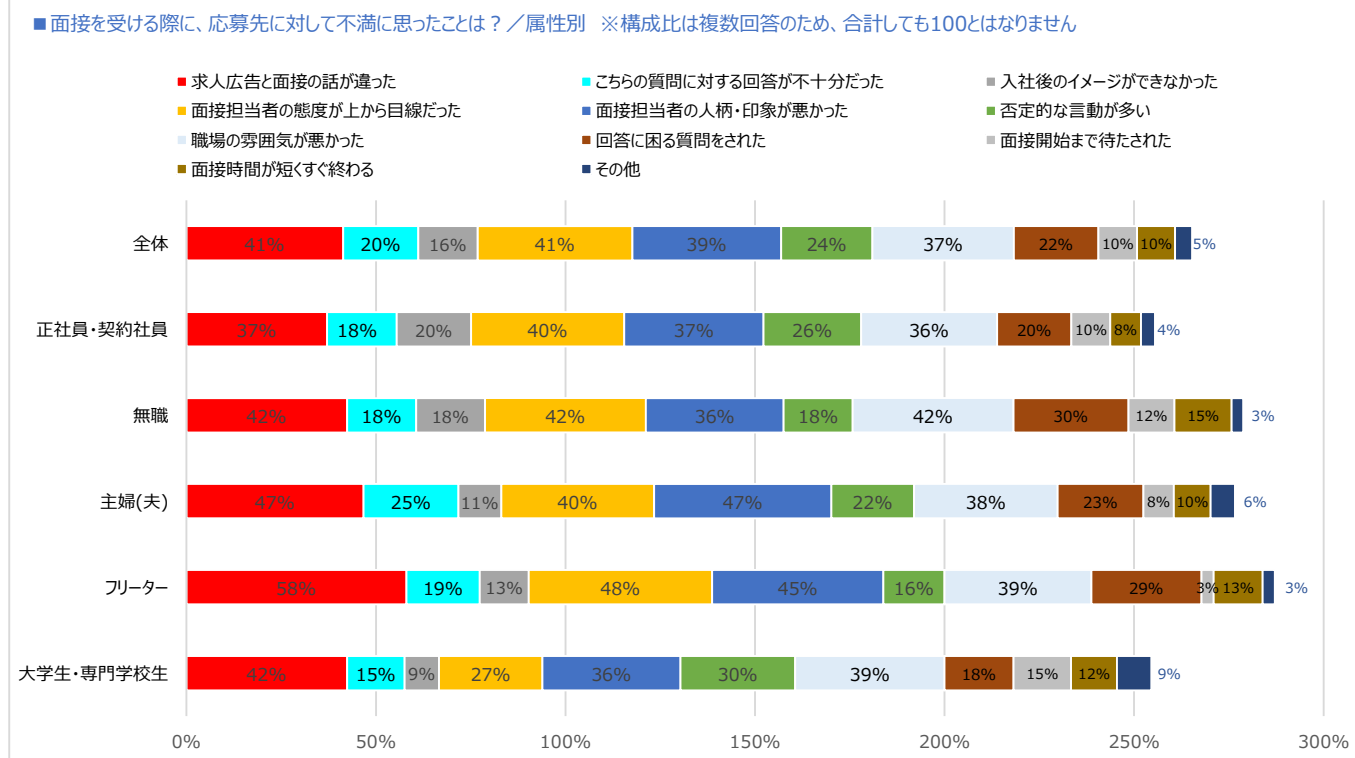
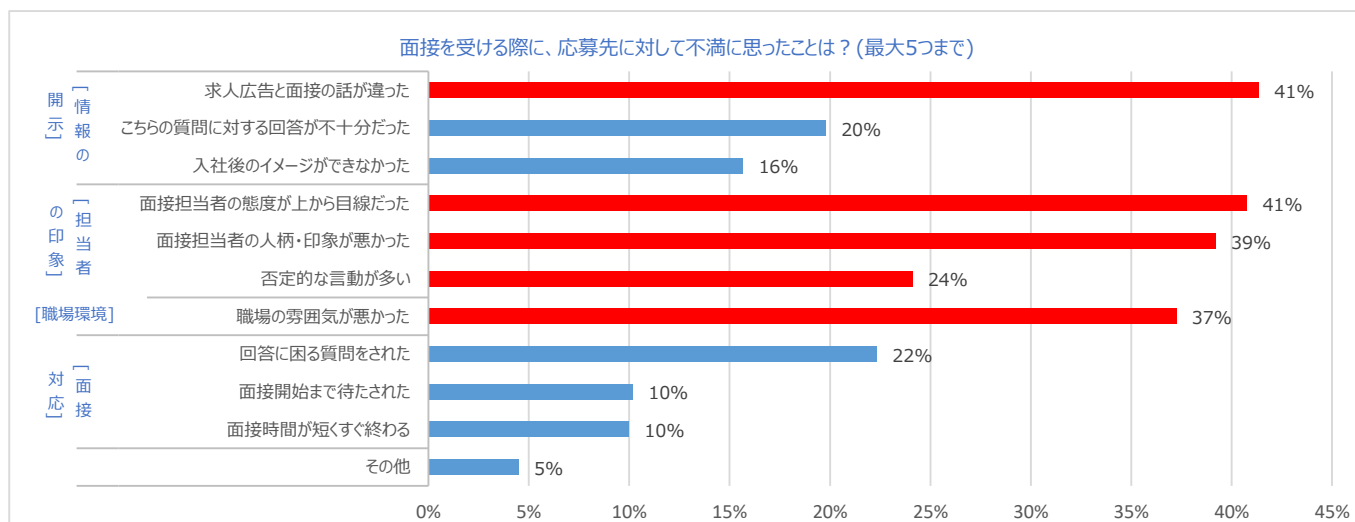


～面接時に応募先に対して不満に思ったことトップは、「求人広告と面接の話が違った」と「面接担当者の態度が上から目線だった」～

○面接を受ける際に応募先に対して不満に思ったことの上位は、同率1位「求人広告と面接の話が違った」と「面接担当者の態度が上から目線だった」、3位「面接担当者の人柄・印象が悪かった」となりました。不満に思う要因を「情報の開示」「担当者の印象」「職場環境」「面接対応」に分類し見ていくと、「担当者の印象」は3項目全てが上位5位以内に挙げられていることが分かりました。

○属性別で比較すると、「求人広告と面接の話が違った」、「面接担当者の態度、人柄・印象」はどの属性でも上位を占めました。また「職場の雰囲気が悪かった」に関しては「無職」では1位、「大学生・専門学校生」では2位を占めており、働きやすい職場かどうか職場環境も敏感に確認していることが窺えます。

まず応募者にとって応募の判断材料となる求人広告と面接に相違がないことが重要だといえます。そのうえで面接担当者の印象がこの職場で働きたいと思えるかどうか採用に大きな影響を与えることが分かります。



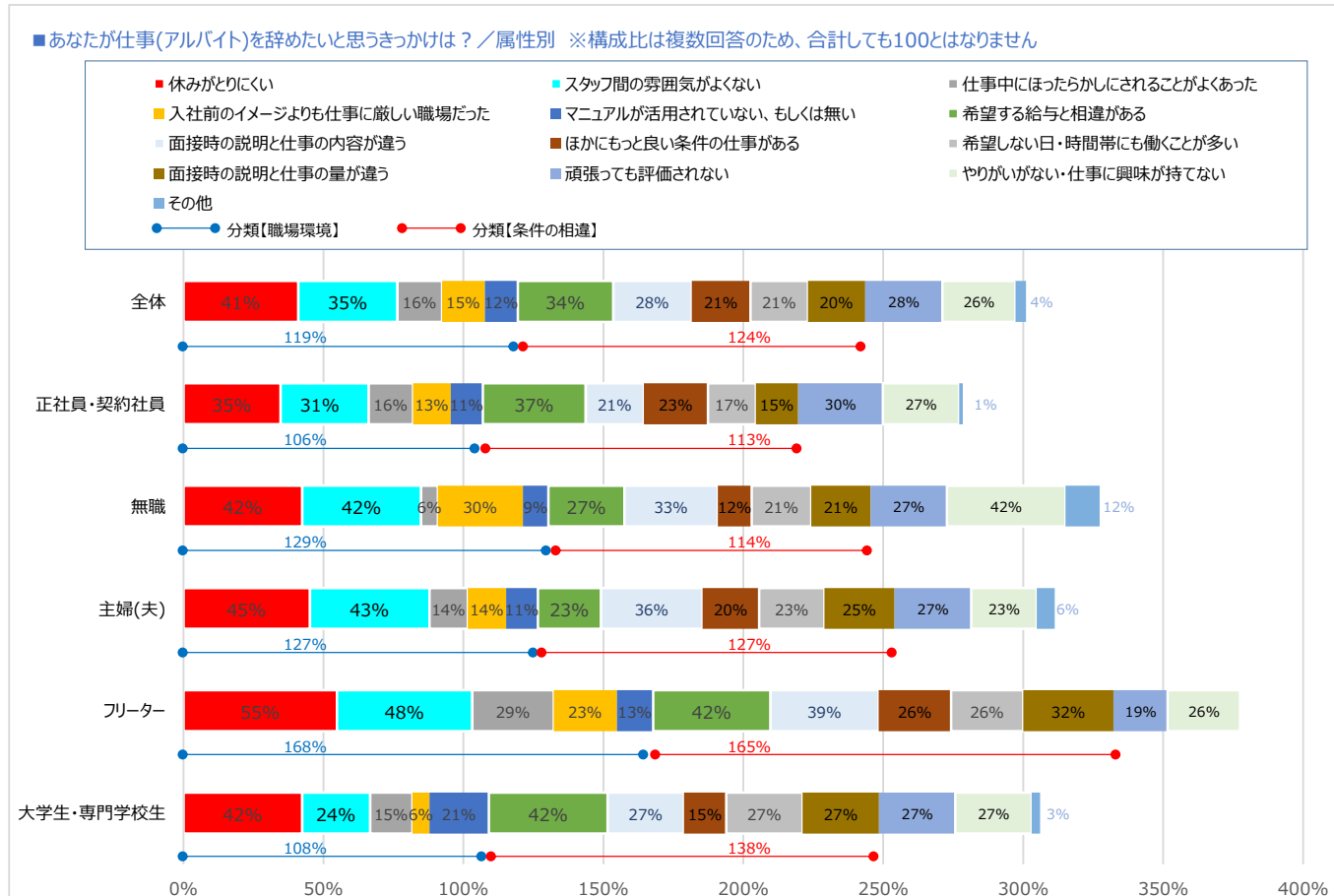
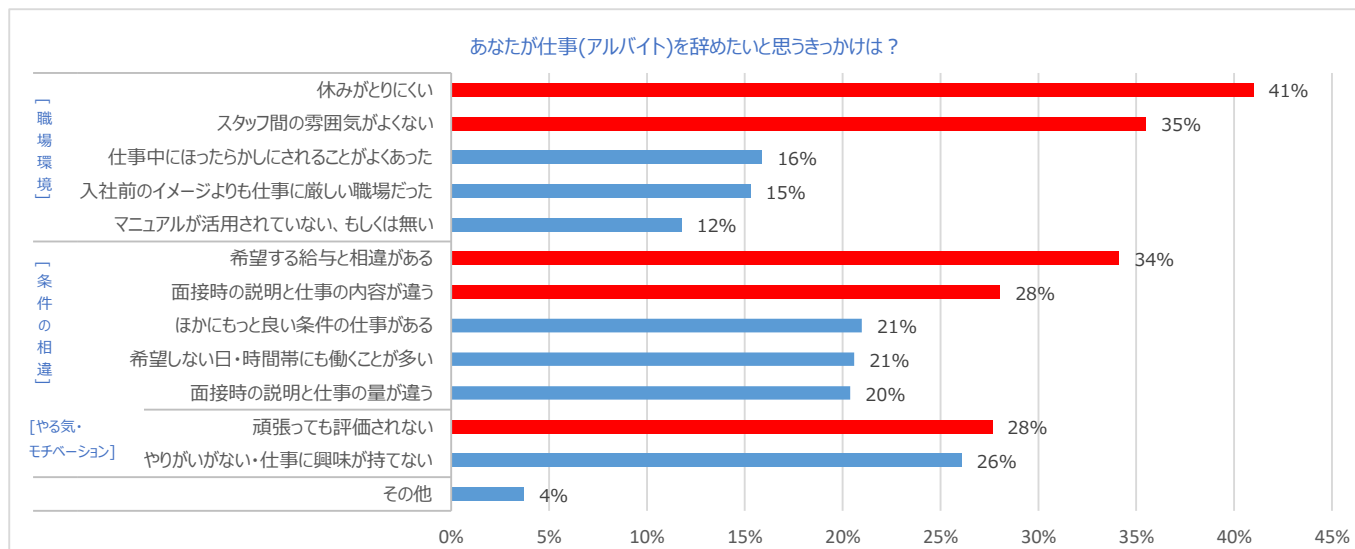
～仕事を辞めたいと思うきっかけの1位は、「休みがとりにくい」～

○何がきっかけで「仕事を辞めたい」と思うのか尋ねると、1位「休みがとりにくい」、2位「スタッフ間の雰囲気がよくない」、3位「希望する給与と相違がある」が挙げられました。

○属性別で比較すると、「主婦(夫)」、「フリーター」では仕事を辞めたいきっかけの1位が「休みがとりにくい」が挙げられ、「正社員・契約社員」では「希望する給与と相違がある」が1位に、無職では「休みがとりにくい」「スタッフ間の雰囲気がよくない」「やりがいがない・仕事に興味を持てない」が1位(同率)に、「大学生・専門学校生」では「休みがとりにくい」「希望する給与と相違がある」が1位(同率)に挙げられました。

仕事を辞めたいと思うきっかけを「職場環境」と「条件の相違」に分類してみても、「職場環境」の割合が多かったのは「無職」「フリーター」で、「条件の相違」の割合が多かったのは「正社員・契約社員」「大学生・専門学校生」でした。

仕事を辞めたいと思うきっかけは、休みがとりにくい、スタッフ間の雰囲気がよくないなど「職場環境」が大きな要因に繋がることが窺えます。「条件の相違」では、希望する給与と相違があったり、面接時の説明と仕事内容が違うことを要因に挙げることが多く、「やる気・モチベーション」では、頑張っても評価されないことが辞めたいと思うきっかけになることが分かります。



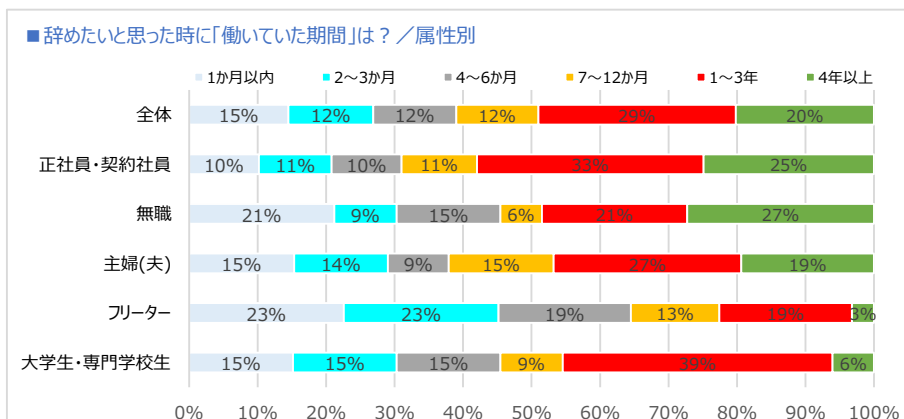
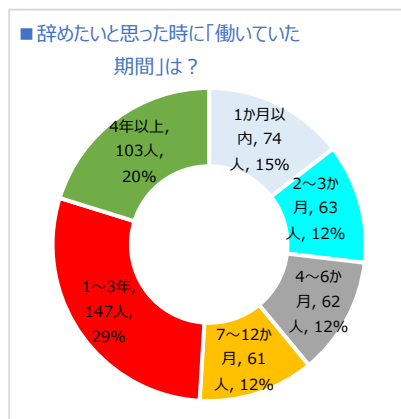
～仕事を辞めたいと思ったときの勤務期間は「1～3年」が最多～

○「仕事を辞めたい」と思った時に働いていた期間は、「1～3年」が最も多く、次いで「4年以上」、「1か月以内」の順となりました。

○属性別でみると、「仕事を辞めたい」と思った時の勤務期間が「フリーター」では「1か月以内」と「2～3か月」が同率最多、「正社員・契約社員」と「主婦(夫)」、「大学生・専門学校生」では「1～3年」が最多、「無職」では「4年以上」が最多となりました。

3か月以内(「1か月以内」+「2～3か月」)の比較的短期間で辞めたいと思う割合が高いのは「フリーター」で46%を占めました。1年以上(「1～3年」+「4年以上」)勤務した後で辞めたいと思う割合が高いのは「正社員・契約社員」58%、「無職」48%、「主婦(夫)」46%、「大学生・専門学校生」45%でした。

仕事を辞めたいと思ったときの勤務期間は、属性別によってかなり違いがあることが分かります。「フリーター」では入社後1か月以内に23%が、半年以内(65%)には2人に1人が辞めたいと回答しています。一方「正社員・契約社員」では1年以上働いて職場環境や仕事内容、給与などの条件をみたうえで2人に1人(58%)が辞めるか判断していることが分かります。

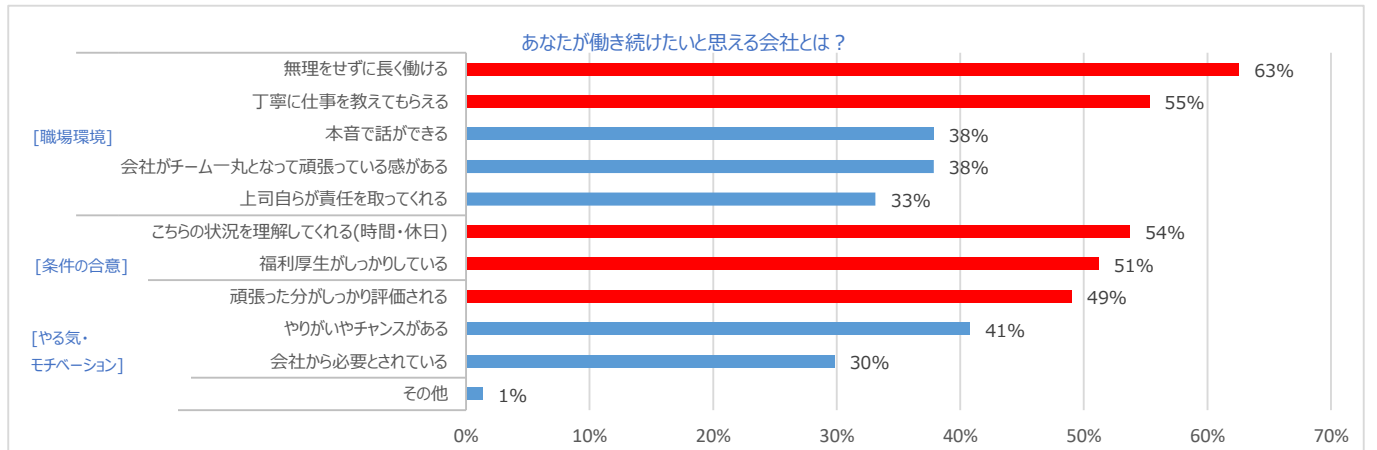


～「働き続けたい」と思える会社の1位は、「無理をせずに長く働ける」～

○「働き続けたい」と思える会社について尋ねると、1位「無理をせずに長く働ける」、2位「丁寧に仕事を教えてもらえる」、3位「こちらの状況を理解してくれる(時間・休日)」が挙げられました。

○各属性の1位に注目すると、「正社員・契約社員」、「無職」では「無理をせずに長く働ける」が、「主婦(夫)」、「フリーター」では「こちらの状況を理解してくれる(時間・休日)」が、「大学生・専門学校生」では「丁寧に仕事を教えてもらえる」が1位に挙げられました。

仕事を辞めたいと思うきっかけでは、休みがとりにくい、スタッフ間の雰囲気がよくないなど「職場環境」が大きな要因に繋がっていましたが、働き続けたいと思える会社でも、自身が無理をしないで長く働ける、丁寧に仕事を教えてもらえるなど「職場環境」が大きく影響することが窺えます。その上で、時間や休日など働く側を考慮する、福利厚生をしっかりとするなど希望の条件を把握することが重要だと分かります。



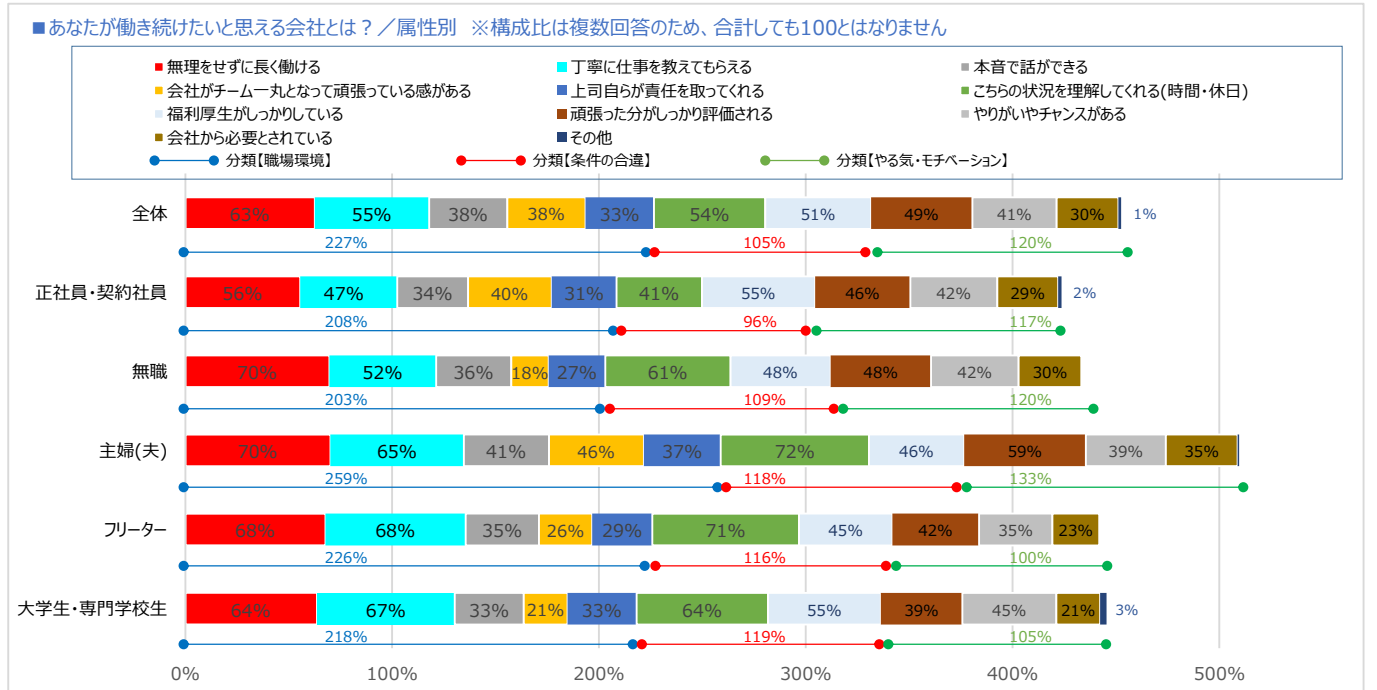
順位	正社員・契約社員
1位	無理をせずに長く働ける(56%)
2位	福利厚生がしっかりしている(55%)
3位	丁寧に仕事を教えてもらえる(47%)

順位	フリーター
1位	こちらの状況を理解してくれる(時間・休日)(71%)
2位	無理をせずに長く働ける(68%)
2位	丁寧に仕事を教えてもらえる(68%)

順位	無職
1位	無理をせずに長く働ける(70%)
2位	こちらの状況を理解してくれる(時間・休日)(61%)
3位	丁寧に仕事を教えてもらえる(52%)

順位	大学生・専門学校生
1位	丁寧に仕事を教えてもらえる(67%)
2位	無理をせずに長く働ける(64%)
2位	こちらの状況を理解してくれる(時間・休日)(64%)

順位	主婦(夫)
1位	こちらの状況を理解してくれる(時間・休日)(72%)
2位	無理をせずに長く働ける(70%)
3位	丁寧に仕事を教えてもらえる(65%)



■「沖縄県内企業の採用実態調査」結果の概要

【調査概要】

■ 調査期間：2019年1月18日～2019年3月14日

■ 調査方法：アンケート用紙配布とインターネット調査。

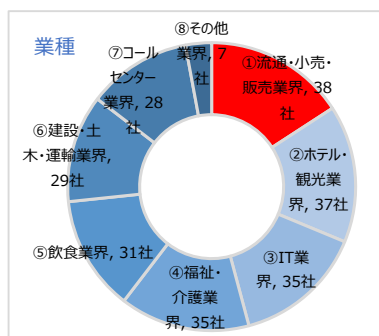
※設問ごとに有効回答のみで集計

※構成比は小数点以下を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100とはなりません。

■ 調査対象：沖縄県に所在する【①流通・小売・販売業界 ②ホテル・観光業界 ③IT業界 ④福祉・介護業界 ⑤飲食業界 ⑥建設・土木・運輸業界 ⑦コールセンター業界 ⑧その他】の企業

■ 有効回答数：240社

■ 回答者属性



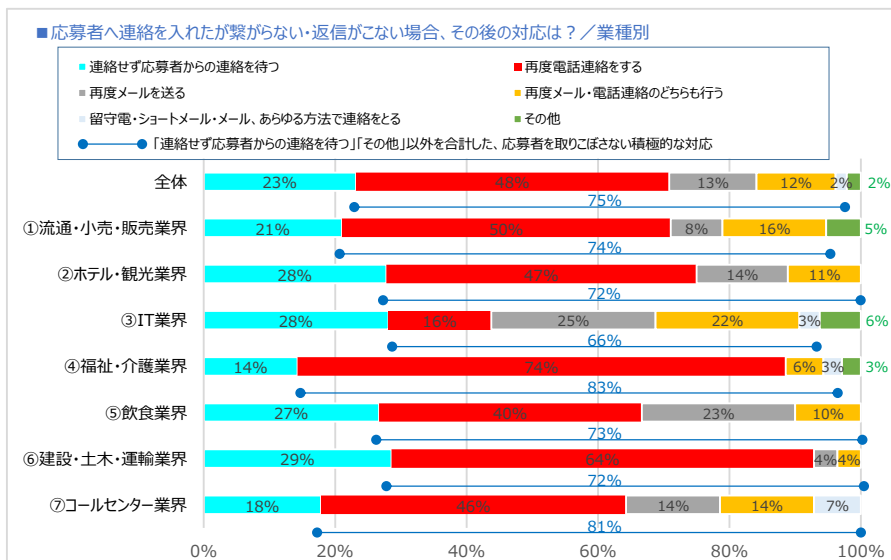
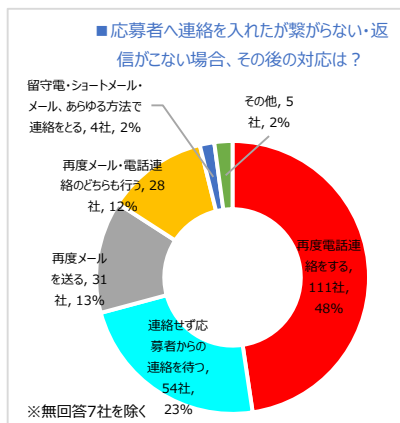
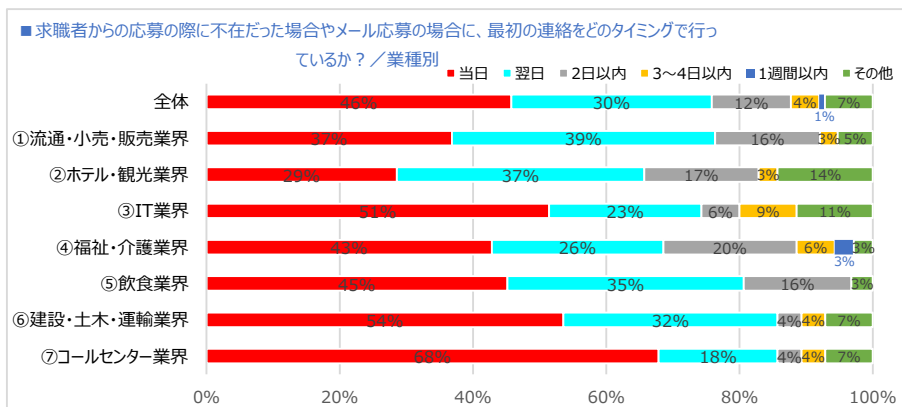
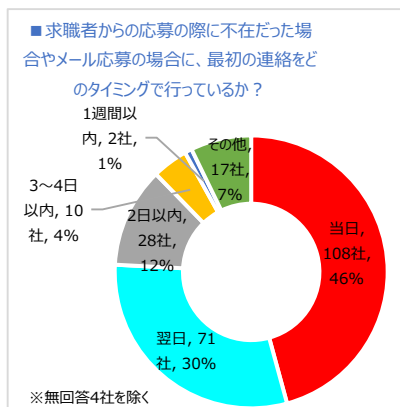
～求職者から応募があった場合、企業からの連絡は「当日」が最多～

○企業へ、求職者からの応募の際に不在だった場合やメール応募の場合に、最初の連絡をどのタイミングで行っているか尋ねると、「当日」が1位で46%を占めました。2位は「翌日」で、応募者を逃さないように企業が早めに連絡をとっていることが分かります。

○業種別でみていくと、応募者へ「当日」連絡する割合が高かったのは「コールセンター業界」で、逆に「当日」連絡する割合が低かったのは「ホテル・観光業界」でした。

○企業が応募者へ連絡を入れたが電話が繋がらない、またはメールの返信がこない場合、その後の対応について尋ねると、1位「再度電話連絡をする」、2位「連絡せず応募者からの連絡を待つ」、3位「再度メールを送る」となりました。

○業種別でみていくと「連絡せず応募者からの連絡を待つ」1位は「建設・土木・運輸業界」、同率2位は「ホテル・観光業界」と「IT業界」で、逆に「再度電話連絡をする」、「再度メールを送る」、「再度メール・電話連絡のどちらも行ふ」、「留守電・ショートメール・メール、あらゆる方法で連絡をとる」を合わせた応募者を取りこぼさない、積極的な対応をしている業種1位は「福祉・介護業界」、2位「コールセンター業界」、3位「流通・小売・販売業界」でした。



～応募者を逃さない対策をしている企業は67%、実施内容トップは「応募受付後面接に関して早めの連絡」～

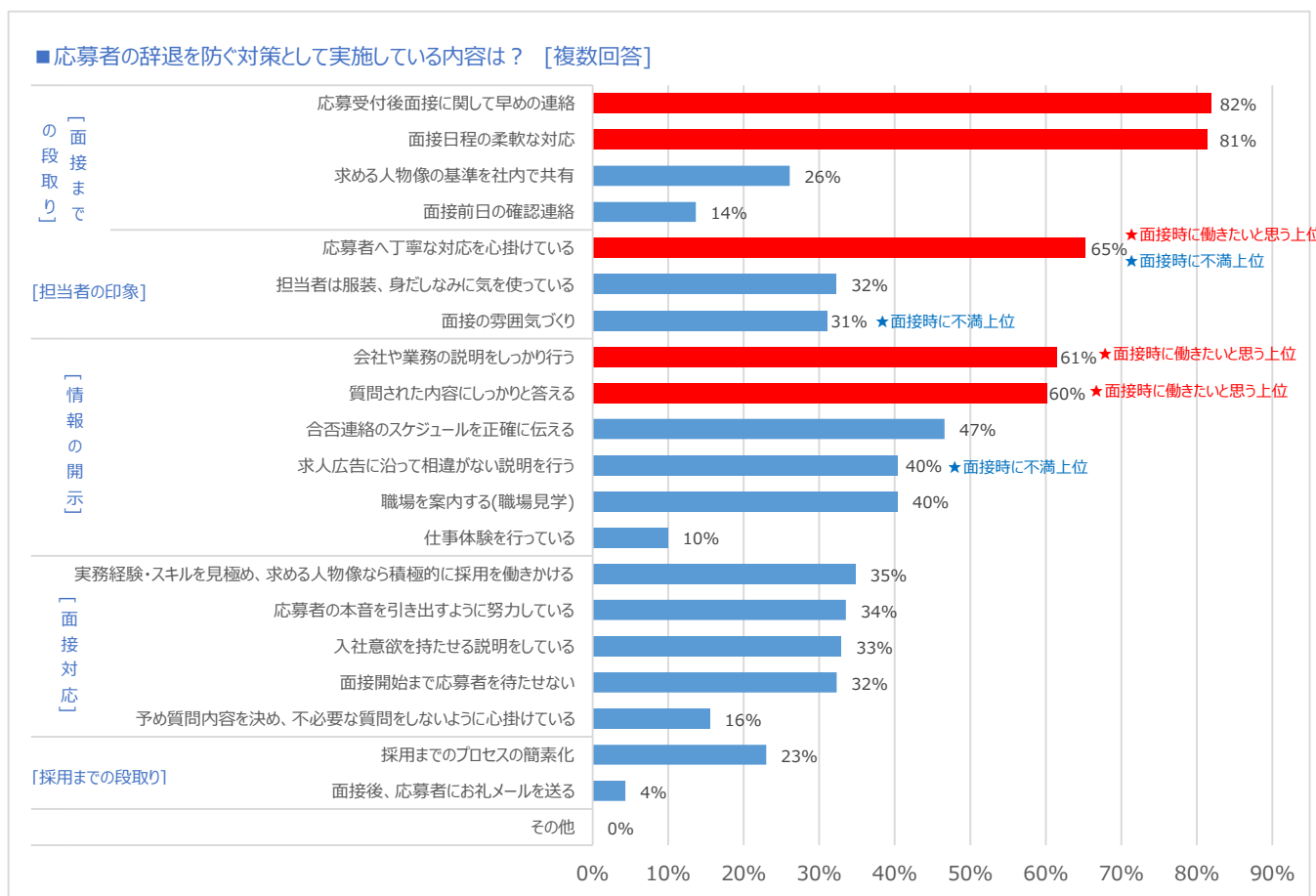
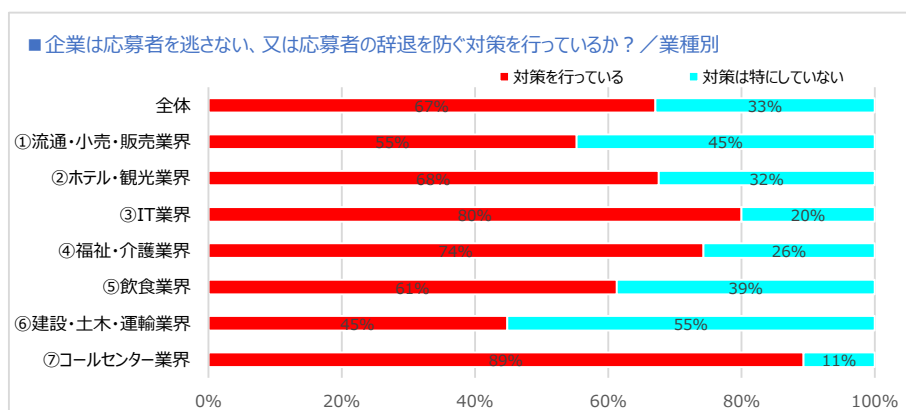
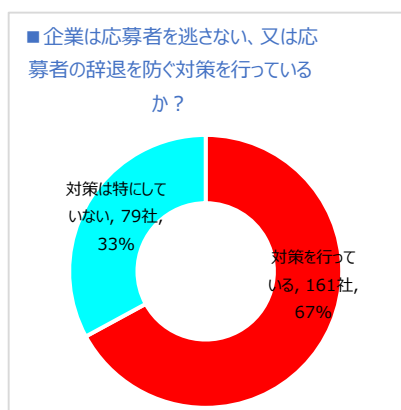
○企業が応募者を逃さない、又は応募者の辞退を防ぐ対策を行っているか尋ねると、67%の企業が「対策を行っている」と回答しました。業種別でみると「コールセンター業界」が応募者への対応、辞退対策を行っている割合が最多(89%)で、取り組みが最も低かったのが「建設・土木・運輸業界」(45%)でした。

○応募者の辞退を防ぐ対策として実施していることは、1位「応募受付後面接に関して早めの連絡」、2位「面接日程の柔軟な対応」、3位「応募者へ丁寧な対応を心掛けている」となりました。

応募者が面接時にここで働きたいと思うポイントで重視された、情報開示での「会社や業務の説明をしっかりと行う」が61%、「質問された内容にしっかりと答える」が60%、同じく面接で重視された担当者の印象での「応募者へ丁寧な対応を心掛けている」が65%を占めました。

一方、応募者が面接時に不満に思ったことで上位に挙げられた「求人広告に沿って相違がない説明を行う」は40%にとどまりました。

応募者の辞退を防ぐ対策では、応募受付後早めに連絡、面接日程を柔軟に対応するが8割を超え、企業は面接までの段取りを比較的重視していることが分かります。応募者が面接時に好印象を持ちやすい、仕事の説明をしっかりと行い、質問に対してきちんと回答している企業は6割程度で、面接時に応募者が不満に思うトップに挙げられた、求人広告に相違がない説明を行っている企業は僅か4割にとどまり、応募者との意識にギャップが大きいことが分かります。



～配偶者控除の適用条件変更内容について、企業の理解度は「理解している」が最多～

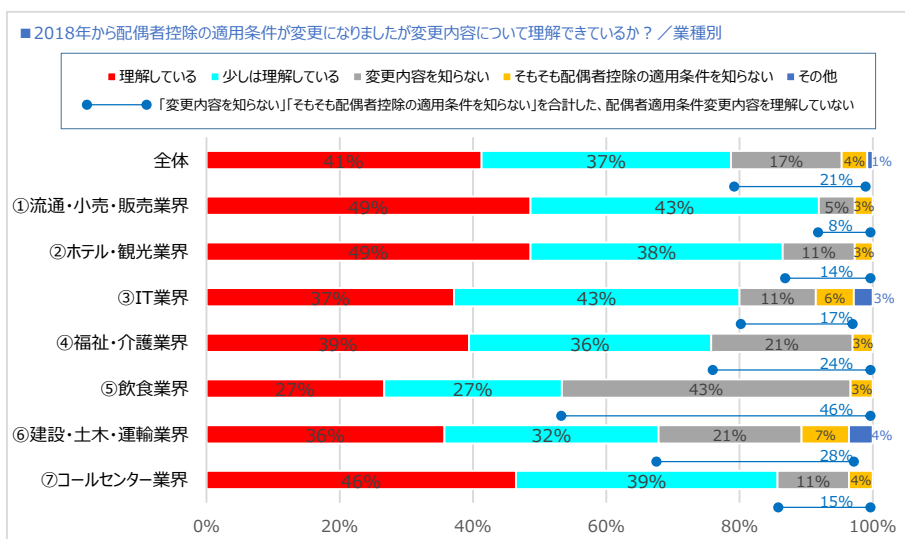
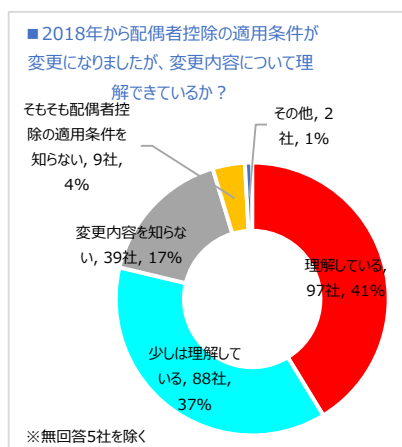
○2018年1月に配偶者控除の適用条件が変更になり(「配偶者」の控除適用上限額が103万円から150万円まで引き上げられました)、企業に変更内容について理解しているか尋ねたところ、「理解している」が最多で41%、「少しは理解している」が37%を占めました。一方で「変更内容を知らない」が17%、「そもそも配偶者控除の適用条件を知らない」企業が4%ありました。

○業種別でみると、配偶者控除の適用条件の変更について「理解している」割合が最も高かったのは同率1位「流通・小売・販売業界」と「ホテル・観光業界」、3位「コールセンター業界」でした。逆に「理解していない(「変更内容を知らない」+「そもそも配偶者控除の適用条件を知らない」)」割合が最も高かったのは1位「飲食業界」、2位「建設・土木・運輸業界」、3位「福祉・介護業界」でした。

昨年、適用条件が変更された「配偶者控除」について、きちんと理解している企業は41%にとどまり、半数にも満たない結果となりました。業種別では「理解している」割合が49%で最多だった「流通・小売・販売業界」「ホテル・観光業界」と、理解していないが43%で最多だった「飲食業界」では理解度に大きな違いが見られました。

アルバイトを雇う上で重要となる「年収の壁(※1)」について、主婦(夫)はもちろんのこと、短時間勤務で扶養の範囲内での働き方を望む学生やフリーター、高齢者など、長く働いてもらうためにも、雇用する側が制度をきちんと理解、把握し労働時間をコントロールすることが重要だといえます。

(※1)年収の壁とは、アルバイトの年収で103万の壁、130万の壁、150万の壁の3つがあり、税金や社会保険料、年金の支払いが免除されるボーダーラインのこと。



株式会社求人おきなわは、就・転職&バイトマガジン「アグレ」、沖縄の求人！正社員・バイト・派遣 総合求人サイト「ウェブアグレ (<https://webagre.com>)」、沖縄で就活！新卒学生の就職情報サイト「ジョーナビ新卒 (<https://sin.joonavi.jp>)」、沖縄で正社員！社会人の就職・転職求人サイト「ジョーナビ転職 (<https://ten.joonavi.jp>)」、沖縄でバイト！学生のバイト求人サイト「ジョーナビ学生バイト (<https://gaku.joonavi.jp>)」、沖縄の人事・採用担当者のための活用サイト「採用のデビキ (<http://kyujinokinawa.co.jp/client/index>)」を通して求職者と採用企業のベストマッチングを目指し、雇用に関わるトータルサービスを提供しております。

【本件に関するお問い合わせ先】

株式会社 求人おきなわ 〒900-0005 沖縄県那覇市天久1044-2

担当：田里 幸司 TEL：098-862-3200 MAIL：tasato388@kyujinokinawa.co.jp

コーポレートサイト：<https://kyujinokinawa.co.jp>